

本時のねらい

・不等式の表し方や意味を理解し、数量の関係を不等式で表すことができる。

本時における 1 人 1 台端末の活用方法とそのねらい

・デジタルドリルや学習コンテンツの特徴に合わせて、自分で問題を選択したり、習熟度に応じたワークブックを用いたりして学習を進めることができる。
・デジタルドリルを用いて、授業と家庭学習を円滑につなげることができる。

活用した ICT 機器・デジタル教材・コンテンツ等

- ・iPad
- ・ロイノート・スクール
- ・タイマーアプリ
- ・マイタイピング(タイピング練習ソフト)
- ・新・ネットレの学習教室 (学習支援コンテンツ)
- ・Qubena(AI ドリル)

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT 活用のポイント・工夫
導入 (15 分)	<ul style="list-style-type: none"> ○本時のめあてと流れを確認し見通しをもつ。 「不等式の表し方に慣れよう」 ○マイタイピングを利用して、ローマ字入力によるタイピング練習をする。【写真 1】 ○Qubena のワークブックで等式の復習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の流れを電子黒板に表示することで見通しをたてる。 ・継続的に実施し、ローマ字入力によるキーボード操作に慣れることで、実社会に活用できる力になる。 ・電子黒板にタイマーを表示しておき、終了の目安をもたせる。 ・前時で使用した問題と同じ問題を入れておくことで、定着度を確認する。 ・正誤の履歴を活用することで、正答できていた問題かを確認することができる。
展開 (25 分)	<ul style="list-style-type: none"> ○新・ネットレの学習教室にアクセスし、不等式の予習問題で、不等式の表し方について説明を聞く。【写真 2】 ・できるようになったら、自分で問題を選び、解いてみる。 ○Qubena を用いて不等式の問題に取り組む。 ・理解度に応じたワークブックをする。 ・必要に応じ、ヒントなどの支援を受けながら進める。 ・他のワークブックや標準問題を解く。【写真 3】 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の習熟度に応じて、説明を聞く問題を決めたり、問題を選んで解きはじめてたりすることができる。 ・電子黒板にタイマーを表示しておき、終了の目安を持たせる。 ・生徒の習熟度に応じて、ワークブックや問題を選択して、取り組みやすいよう調節する。
まとめ (10 分)	<ul style="list-style-type: none"> ○本時の内容を振り返る。 ・課題を発見し、問題解決に向けての努力目標を見つけ、家庭学習や次回の学習につなげる。 ○家庭学習の内容を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Qubena や新・ネットレの学習教室の学習教室等のデジタル(AI)ドリル等を使用することで家庭学習での定着を図る。

1 人 1 台端末を活用した活動の様子



【写真 1】 タイピング練習をしているようす



【写真 2】 予習問題を活用して、自分で選んだ問題を解いているようす



【写真 3】 自分の力で Qubena のワークブックを解いているようす

児童生徒の反応や変容

・タイピング(ローマ字入力)練習を継続して行うことで、入力するスピードや文字数が向上した。
・自分で学習する問題を、自分で選択することにより、前向きに説明を聞こうとしたり、積極的に問題を解いたりするようすが見られた。また、AI ドリルでは、学習履歴を確認しながら共有して授業で復習することで、家庭学習とのつながりを感じているようすが見られた。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

・毎時間のタイピング練習により、短時間での文字入力数も増加しているので、継続的に取り組むことが大切。
・目的に応じて 2 つのデジタルドリルを使い分けることで、自ら学ぶ姿勢を育むことができた。